日本代表合宿前日のも関わらず、千葉のトレーニングで、チームメイト共に汗を流す巻（中央）
（川崎篤彦撮影）

巻誠一郎、W杯メンバー選出緊急特別特集

巻誠一郎、世界最高の舞台へ

2005年、久保竜彦（横浜）の代表辞退による追加召集。現在までにA代表で記録したゴールはわずか3得点。初選出からわずか1年足らずで、一気にW杯メンバーの23人まで昇り詰めた。ドイツでのフィールドに立つための戦いがいま始まる。

文●川崎篤彦

●プロフィール/まき・せいいちろう/ジェフ千葉所属。1980年8月7日、熊本県出身。184㌢・81㌔。小川町立河江小→小川町立小川中→県立大津高→駒澤大 。前線からの惜しみないプレスはもちろん、身体を張ったポストプレーやゴール前での泥臭いプレーが特徴。本人曰く「利き足は頭」。

日本代表に選ばれた我慢

5月15日、都内ホテルでのW杯ドイツ大会の日本代表メンバー発表。中田英寿（ボルトン）、中村俊輔（セルティック）、小野伸二（浦和）など、日本を代表するプレーヤーの名が呼ばれ、ジーコ日本代表監督がFW陣の名前を呼び始めた。「タカハラ、オオグロ、ヤマギタ、…」。誰もが最後には「クボ」という名が聞こえると思ったはずだ。しかしジーコから発せられた言葉は「マキ」。その瞬間、会場はどよめいた。メンバー発表で唯一、サプライズが起こった瞬間だった。

巻誠一郎。今でこそジェフ千葉での活躍が認められ、日本代表に名を連ねるようになったが大学時代、駒大サッカー部で**柳沢敦**（現鹿島）とコンビを組み、「大学史上最強ストライカー」と呼ばれていたことを知る人間は決して多くはないだろう。大学時代の巻の印象を秋田監督に聞いてみると、「真面目で、責任感が強い」という答えが返ってきた。巻は大学時代からパワフルなポストプレーと持ち前の嗅覚でゴールを量産したが、秋田監督が巻を信頼していたのはどんな時も力を惜しまず前線からプレスをかけるその姿勢を評価していたからであろう。「大学時代と変わらない気持ちで戦う選手」（秋田監督）というプレースタイルを貫くことが、千葉のオシム監督にも「一生懸命頑張る人間の典型的な例」と印象を与えた。巻自身も「諦めない気持ちが、ジーコに」評価されたと語っている。

今回のメンバー選出については、巻本人がビックリしたと言うほど、誰もが予想をしなかったことであろう。秋田監督も「巻が選ばれて、またオシム監督も、今一番、幸福なのは巻である」という祝福の言葉を述べている。しかし、選ばれたものやるべきことは多い。「一番問題なのは、海外組とは初めてやる」（巻）ということだ。「試合は見ているのでイメージはある」というが、やはり、見ているのと実際にやるというのは大違いである。そのために巻は「コミュニケーションをしっかりとって、僕のプレーを見てもらいたい」とすべきことを語った。駒大OB代表として、さらに「国を代表して、巻初戦（戦うW杯は、楽しみに行くのではない」と巻が言うようにしっかりと結果を残すために「利き足である頭」で決めたい。巻はそのフィールドに立っているのであろうか、背番号も、11に決まり、巻のW杯への次ぎなる挑戦が幕を開けた。

来る6月12日。オーストラリアとのW杯の初戦に巻はそのフィールドに立っているのであろうか、背番号も、11に決まり、巻のW杯への次ぎなる挑戦が幕を開けた。